中学校

平成8年度

教育研究員研究報告書

国　　語

東京都教育委員会

平成８年度

教育研究員名簿（国語）

班	地区名	学校名	氏名
表現班	大田	志茂田中	武井勝久
	中野	第十一中	◎ 渋谷正宏
	杉並	富士見丘中	千葉正法
	板橋	上板橋第二中	伊藤光子
	練馬	開進第三中	橋口尚弘
	町田	南中	神谷昭子
	町田	南成瀬中	梶野明信
	小平	上水中	古怒田久美恵
	あきる野	増戸中	桑ケ谷美智
理解班	新宿	牛込第二中	光山真人
	目黒	東山中	佐藤薫
	北	田端中	五十嵐美香
	足立	第十四中	○ 釈尾裕子
	葛飾	新宿中	蓮沼祥之
	府中	府中第三中	長谷川聡
	清瀬	清瀬中	川戸直美

◎ 世話人　○ 副世話人

担当　教育庁指導部中学校教育指導課指導主事　河野庸介

目次

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 1

Ⅱ　研究の全体構想図 …… 2

Ⅲ　研究の内容

1　表現班 …… 3

2　理解班 …… 7

Ⅳ　実践事例

1　表現班 …… 12

2　理解班 …… 18

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題 …… 24

研究主題

生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的な言語活動を促す指導と評価の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

21世紀を目前にして、現代の社会は国際化、情報化が進展するとともに、科学技術の一層の発展が続くなど激しい変化の中にある。また、日常の生活様式が変化し、人々の価値観も急速に多様化するなど生徒を取り巻く生活環境は大きく変わりつつある。

そのようななかで学校教育には、生涯を通じて社会の変化に主体的に対応し、たくましく生きる人間の育成が強く求められている。特に中学校教育においては、基礎的・基本的事項の徹底とともに、生徒一人一人の個性を生かし、学習への関心・意欲を高め、生涯にわたって主体的に学習に取り組む能力や態度の育成が大きな課題となっている。

国語科の立場からこれらの課題に応えるために、本分科会では次の三つの視点に立って研究を行うこととした。

第一に、生徒一人一人の国語に対する学習意欲を高めることが重要であると考えた。個性を生かす教育を進めるためには、生徒の内発的な意欲や主体的な態度を育成することが大切であると考えたからである。また、国語を学ぶことの楽しさや成就感を体得させ自ら学ぶ意欲を高めることは、生涯を通じて国語を尊重し、学び続けるとともに、たくましく生き抜いていくための基盤となる力を育成する上からも大切である。

第二に、生徒一人一人の主体的な言語活動の充実を図ることが重要であると考えた。言語の教育を担う国語科には、生涯にわたって主体的に学習に取り組む能力や態度を育成するとともに、聞く・話す・読む・書くという活動を主体的に行うことのできる生徒の育成を目指し、指導の改善と充実を図ることが求められている。

第三に、指導と評価の一体化を図ることが重要であると考えた。そのため、生徒が主体となる学習活動を展開するとともに、日常の授業の中での評価の在り方を見直し、指導の過程や結果について意図的・計画的に行う評価を重視した。特に学習活動の中で自己評価・相互評価を多く取り入れることにより、生徒に学習に対する満足感や成就感を得させ、生徒の興味・関心・意欲が高まると考えた。

このような視点から研究主題を「生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的な言語活動を促す指導と評価の工夫」と設定した。

研究を進めるに当たって、表現班・理解班の２班を設け、それぞれ副主題を設定し、主題に迫った。表現班は、音声言語による意見発表を行う学習の中で、特に話の組み立てに関する指導を取り立てて、論理的な表現力を育成することを目標とした。理解班は、文学的文章における作者の「表現の工夫」に着目させることを通して、主体的に読み取る力を育成することを目標とした。両班とも授業をもとに実証的な研究を進めることとした。

Ⅱ　研究の全体構想図

教育課題・社会の要請
- 心の教育の充実
- 基礎・基本の重視
- 個性教育の重視
- 自己教育力の育成
- 文化と伝統の重視
- 国際理解教育の推進

生徒の実態
○あらたまった場面で、情報を整理し、筋道を立てて発表することを苦手としている生徒が多い。
○文学的文章の授業で、「興味・関心を持続できない」「自分の意見や考えをもてない」という生徒がいる。

中学校国語科の目標
- 国語を正確に理解し適切に表現する能力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

今日の社会の実態
- 価値観の多様化
- 生活様式の変化
- 情報化、国際化の進展

目指す生徒像
○生涯を通じて、自ら学ぶ意欲をもった生徒
- 適切な表現を工夫し、意欲的に表現できる。
- 自己を豊かに高めるため、聞き手・読み手として意欲的に取り組める。

○自らのものの見方や考え方をもち、主体的に判断し、行動できる生徒
- 筋道を立てて考え、分かりやすい表現ができる。
- 自ら課題を見つけ、主体的に文章を読み取ることができる。

研究主題
生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的な言語活動を促す指導と評価の工夫

表　現　班		理　解　班
音声言語による論理的な表現力の育成	副 主 題	文学的文章を主体的に読み取る力を育てる －「表現の工夫」に着目させることを通して－
○意見発表の学習において、話の内容の全体を理解させ、話材カード・構成カードの活用により、常に順序立てて発表させる指導を行えば、相手に分かりやすく、論理的に表現する能力が身に付くであろう。	仮　説	○「表現の工夫」を整理・分類したものを活用して、表現に着目させることにより、語句の意味の深さに気付くことができるとともに、作品に興味・関心をもち、学習意欲が高まるであろう。 ○教材文と生徒が自ら創作したものとを比較・検討することで、作者の工夫していることを生徒が理解するとともに、主体的な言語活動をすることができるであろう。
・話材カードを与え、音声表現の組み立てを取り立てて指導する工夫。 ・構成カードを使うことにより生徒が主体的に学習に取り組む工夫。 ・構成カードを使った小集団での学習により意欲を高める工夫。 ・自己評価・相互評価の内容が次の学習に生かせる評価カードの工夫。 ・主体的な学習活動を促すワークシートの工夫。	主題に迫るための指導の工夫	・「表現の工夫」を整理・分類したプリントを使って、教材文の中からそれを主体的に探すための指導の工夫。 ・学習した「表現の工夫」を使って、生徒自らが主体的に文章を書くための指導の工夫。 ・小集団での学習を通して、「表現の工夫」についての学習意欲を高めるための工夫。 ・自己評価・相互評価の内容が次の学習に生かせる評価カードの工夫。 ・主体的な学習活動を促すワークシートの工夫。

Ⅲ　研究の内容

【1　表現班】

研究副主題：「音声言語による論理的な表現力の育成」

(1)　基本的な考え

情報化、国際化が進展する社会の中で、多くの人が自己を表現する力の大切さを改めて実感している。自分の考えを大切にし、正しく表現したり理解したりする能力を養うことがますます重要視されている。特に音声言語の教育については、その重要性が一層認識され、より良い指導方法についての研究が求められている。

本分科会では、こうした時代の要求を踏まえ、他者との情報の交換を円滑に行うためのコミュニケーション能力の育成を図るとともに、情報を論理的に分析し、理解し、判断することにより、自分の考えを深め効果的に伝達できる能力を育成する指導方法の開発を試みた。

研究を進めるに当たり、「論理的な表現力」を、「相手に分かりやすく伝えるために、話の組み立てを考えながら表現する力」と理解した。また、話す材料があり、話の組み立てが整っていれば、相手にうまく伝えることができると考えた。さらに、効果的な組み立てができるようになれば、音声言語に対するより主体的な姿勢が生まれると考えた。

まず、音声言語の表現活動で生徒がどのような点に苦手意識を感じているか実態調査したところ、次のような結果が出た。「自分の意見が相手にうまく伝わらなかった経験があるか」という質問に対して「よくある、ときどきある」と答えた生徒は72%に上り、その理由として、「自分の思いをうまく表現できなかったから」を第一に挙げた生徒が、一番多く57%に上った。このことからも、音声言語の論理的な表現力の育成の必要性が確認された。

また、「日ごろの話し合いで発言しているか（話し合いとは、国語科の授業や学級活動に限る）」という質問に、「あまり発言していない」と答えた生徒は50%になり、その理由として、「発言することに自信がないから」、「なにを話したらよいか分からないから」に続いて、「発言の仕方が分からないから」という理由を挙げた生徒も多くいた。さらに、「発言するときにどんなことに注意しますか」という質問に「みんなに聞こえるように大きな声で話す」の46%に続いて、「筋の通ったことを話す」を挙げた生徒が30%で、「言葉遣いや態度に気を付ける」や「他の人の意見についても考えながら話す」を上回った。以上のことから本分科会では、話の組み立てを考えさせることを通して、生徒の論理的な表現力を育成することを目標にした。

(2)　研究の仮説

意見を発表する学習において、話の内容の全体をつかみ、話材カード・構成カードの活用により、常に順序立てて発表することを意識させる指導を行えば、相手に分かりやすく、論理的に表現する能力が身に付くと考えた。

上記の仮説に基づいて本分科会では、関連する文献の研究、実態調査（アンケート）、授業研究を行いながら、その研究を進めた。

(3) 研究の方法

仮説に従い、

・生徒の興味・関心を喚起し持続させる題材や話題の選択（単元設定）
・ワークシート・メモ・話材カード・構成カードの活用
・主体的な活動を支える自己評価や相互評価の活用

を考えて、下記のような実践を行った。

＜実践経過＞

5月　・研究主題について、基本的な考え方の明確化。文献研究。
6月　・研究授業①　「目的や場面に応じた表現」
　　・学習指導の基本的な考え方についての理解の深化、仮説の設定。
7月　・研究授業②　「自分の意見をはっきり伝えよう」
9月　・研究授業③　「分かりやすい説明をしよう」
　　・調査研究として、東京都公立中学校生徒（1,296名）を対象に、「話すこと」について質問用紙法で調査し、生徒の実態を分析。
10月　・研究授業④　「組み立てを意識して意見を述べる①」
11月　・研究授業⑤　「組み立てを意識して意見を述べる②」
1月　・研究授業⑥　「組み立てを意識して意見を述べる③」

(4) 指導の内容

① 指導のねらい

本分科会では、上述のごとくアンケートより、生徒が音声言語で表現を行うときに困難を感じる主なものを、「何を話してよいか分からない」（話材）、「発言の仕方が分からない」（組み立て）ことであるととらえた。また、生徒は「発言の仕方が分からない」ことの方に、より困難さを感じていると考え、音声言語による論理的な表現力の育成の基礎として、組み立てを意識させることに重点を置いた。

② 意見を発表する活動を主とした理由

話し合い活動では、次の3段階を踏まなければならないと考える。他からの情報を正確に理解する（第1段階）。その情報に対する自分なりの意見をまとめる（第2段階）。自分の意見を相手に分かりやすいように表現する（第3段階）。これらの各段階でのそれぞれの力が身に付いてこそ、有意義な話し合いができるようになる。しかし、一度にこの3段階のすべての能力を育成することは難しい。

意見を発表する活動では、話し手と聞き手の立場が最初から固定されているため、組み立てを考えさせることに重点を置いた取り立て指導ができると考えた。

③ 具体的な方策

話材カードを使い、生徒に話材をあらかじめ与えておく。話材カードとは、テーマについて論を進めるために必要な内容（話材）をメモ程度の短い文で表し、一つ一つを切り離してカード形式にしたものである。一つの班に16枚の話材カードを1セットずつ与える。

話材カードにより話し合いをし、自班の意見をまとめ、それを聞き手に分かりやすく説明するために、必要な話材カードを効果的に配列する。選択した話材カードを、「結論」、「根拠・理由」・「予想される反論」・「反論に対する答え」などと書かれた構成カードと組み合わせる。その後、話材カードと構成カードを一組としたものをどういう順序で並べれば効果的に表現できるかを考える。それぞれの班の発表時には、班員一人一人が一組の話材カードと構成カードを持って順番に並ぶ。各班員は自分の分担部分について接続語句や文末表現を工夫したり、話材カードの内容を膨らませたりして、発表が全体として一つにまとまるように考える。その後、黒板に各班のカードを掲示し、相互に比較することによって、より効果的な組み立てについて全体で考察する。また、生徒は評価カードにより、自己評価・相互評価を行うことによって、次時の学習に生かせるようにする。第1時から第3時のまとめとして第4時から第6時までを使い、班ごとにテーマを決め、話材を集めるところから始めて、意見発表を行う。

④　本授業の長所

- 話材カードを用いて話材をあらかじめ与えることにより、音声表現の組み立てのみに重点を置いて意識付けができる。
- 構成カードとの組み合わせにより、話材を全体の中でどんな要素として使っているか生徒自らが考えられる。
- 班の話し合いで論を組み立てていくため、お互いに協力しながら、興味・関心をもって取り組める。
- 各班との組み立ての比較により、より効果的な組み立てについて自分たちで考察できる。

(5)　考　　察

本研究は、言語活動の場面を生徒に提供することにとどまらず、言語活動の主体としての生徒が、論理的な表現力を身に付け、自らの言語生活を押し広げ、積極的に発展させていく態度や能力を育成することに力点を置いた。

音声による表現力の育成を目指した授業の中には、発音・発声、相手意識、目的意識、場の意識の指導などがあるが、われわれは構成を意識し、より効果的に構成するための工夫が大切だと考えた。そこで、意見発表をするために必要な基礎的な構造を学ぶために、話材カードと構成カード等を用いた学習活動を取り入れた。それにより、自分の意見を発表することに自信がもてなかったり、どう話してよいか困っていたりした生徒が、その苦手意識を克服するとともに、自分の考えや思いが聞き手に理解されたときの喜びを実感できることを重視した。すなわち、事前の生徒への実態調査（話すこと）により明らかになった問題点を取り除きつつ、主張や根拠が明らかで、論理的に構成された表現ができる生徒を育成するための指導を展開した。

そして、事前と事後の調査や一連の指導を通して、次のような点が確認された。

- 自分の話し方に関心を払う生徒が増えた。
- 生徒は話の組み立てを意識して、どう話せば相手に伝わるかを体験を通して学習できた。
- 音声言語によるコミュニケーション能力の学習に興味を示す生徒が増えた。

また意見発表をするときの組み立てに焦点を絞り、その学習に専念させることによって、論理的に表現する力が不足していた生徒も、論理的な表現力を身に付けることができた。

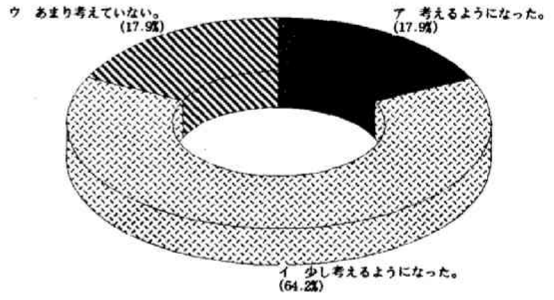
さらに、基本的な構成を理解し、それを身に付ける過程において、生徒は話の構成を意識して、接続語句や文末表現の効果的な用法を身に付け、さらに、より効果的な組み立てを試みるなど、発展・変容していく様子が観察された。特にそのために有効だったのは、評価の観点を明確に記した評価カードの利用と班での相互学習を重ねる形態であった。

そして、そのことはすぐれた話し手としてだけではなく、他者を尊重する態度をもった聞き手を育てる上でも重要と考えられる。

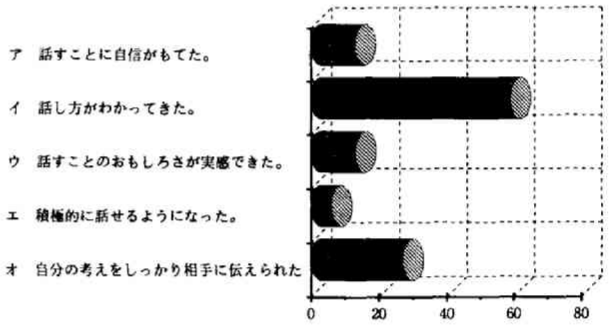
最後に、本学習では意見の組み立てを重視し、そのために話材をあらかじめ生徒に提供したが、次の段階の学習としては、さらに根拠・理由を生徒自身で考えて述べたり、自らの経験談を具体例として挙げるなどさまざまな発展応用が考えられよう。

（事後アンケート　対象生徒108人）

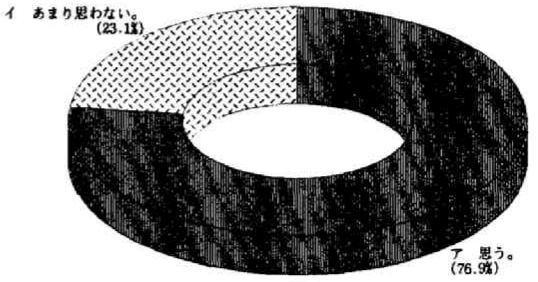
1　あなたは自分の話し方について考えるようになりましたか。



2　あなたは「音声表現」の授業を通して何を得ましたか。（複数回答）



3　あなたはこれからも「音声表現」の学習をしたいと思いますか。



【2　理解班】

研究副主題：「文学的文章を主体的に読み取る力を育てる ――『表現の工夫』に着目させることを通して ――」

(1)　基本的な考え

物質的な豊かさが進展するなかで、心の豊かさの大切さが指摘されている今日、文学的文章の読みを深める授業の意味は決して小さくないであろう。しかし、文学的文章の学習において、「興味・関心を持続できない」、「自分の意見や考えをもてない」という生徒も少なくないのが現状である。文学的文章の指導の過程で、もし「あらすじ」を理解することのみで満足してしまう生徒がいるとすれば、より深くその内容や主題を読み取る方法を身に付けさせるような授業を私たち指導者が創り出さなければならない。

本分科会では、まず、生徒の実態を調査した。文学的文章を読むうえで、「何に興味・関心をもっているか」「理解を深めるときの障害となるものは何か」などの確認を行った。その結果、現状の文学的文章の学習において、特に欠けていると思われるものの一つが「表現の工夫」に着目させる学習であることが分かった。そこで、私たちは、「表現の工夫」に着目させる指導が文学的文章を主体的に読み取る力を育てる一つの方法として位置付けられるのではないかと考えた。

次に、「表現の工夫」に着目させる指導を行うために、「表現の工夫」の具体的な項目について整理・分類を行った。一般的に「表現技法」と言われているものや、構成に関わるもの、描写や説明などを中学生の発達段階を考慮しながら整理・分類した

この整理・分類した「表現の工夫」をいつ、どの教材で、どのように指導するかという三年間の指導計画を立てることが今後の課題であるが、今年度は「取り立て指導」を行うことがより効果的であると考えた。

「取り立て指導」においては、ワークシートを用いた。ワークシートはその作品で着目させるべき「表現の工夫」を効果的に理解でき、また創作をすることができるよう工夫した。この学習を通して、他の作品を読むときでも、どのような表現に着目すればよいのかという判断ができるようになり、読解に意欲的に取り組むことができるようになるであろうと考えた。また、作品の細部にまで注意が払われるため、理解を深める手立てにもなると考えた。

さらに、作品の一部を生徒が自ら創作する学習も試みた。完成された作品を鑑賞することにとどまらず、創作することにより主体的に作品に臨むようになることが期待されると考えたからである。さらに、表現方法を細部にまでより詳しく比較、検討することで、豊かな言語活動を行うことができるとも考えた。

(2)　仮　　説

本分科会では、以上のような基本的な考えをもとに、次のような仮説を立てて、授業研究を中心に仮説の検証を試みた。

①　「表現の工夫」を整理・分類したものを活用して、表現に着目することにより、語句の意味の深さに気付くことができるとともに、作品に興味・関心をもち、学習意欲が高まるであろう。

② 作者の「表現の工夫」がなされている部分と、生徒が自ら創作したものとを比較、検討することで、「表現の工夫」に対する生徒の興味・関心が深まり、主体的な言語活動の一助となるであろう。

(3) 研究の方法

本分科会では、仮説を設定するにあたり、まず、文学的文章の学習に対する生徒の実態を把握するためにアンケート調査を実施した。以下は、その調査の中の、特に本分科会のテーマである「文学的文章を主体的に読み取る力を育てる ──「表現の工夫」に着目させることを通して ──」に関して、その結果を抜粋したものである。

アンケートの結果

平成８年度９月実施。対象人数１年３０５名、２年２６７名、３年１９４名。

1 あなたは、国語の授業が好きですか。
a 好き 11% b やや好き 46% c やや嫌い 33% d 嫌い 10%

2 1でa、bと答えた人は、どんな文章の授業が好きですか。（複数回答可）
a 物語・小説 55% b 随筆 13% c 説明文・論説文 10%
d 詩・短歌・俳句 14% e 古典 5% f その他 3%

3 1でc、dと答えた人は、どんな文章の授業が嫌いですか。（複数回答可）
a 物語・小説 10% b 随筆 16% c 説明文・論説文 29%
d 詩・短歌・俳句 18% e 古典 21% f その他 6%

4 1でc、dと答えた人は、嫌いな理由はなんですか。
a 答えが一つでなくて、はっきりしないから。 34%
b 授業中、先生がわかりきったことを質問するから。 4%
c 自分で考えるより、先生がすべて説明してしまうから。 4%
d 「考えなさい」と指示されるが、考える方法がわからないから。 35%
e 考えるのがめんどうくさいから。 12%
f その他 11%

5 物語・小説でどういうところに最も興味・関心をもって読もうとしていますか。
a あらすじ 62% b 登場人物の心情の移り変わり 24%
c 主題 7% d 文章の書き方 5%
e その他 2%

6 物語・小説の学習で、あなたが最も苦手とすることはどういうことですか。
a あらすじをつかむ 10% b 登場人物の心情を読みとる 28%
c 主題を考える 22% d 文章の書き方の工夫に気付くこと 36%
e その他 4%

7 小説・詩を読むのは好きですか。
a 好き 20% b やや好き 42% c やや嫌い 25% d 嫌い 13%

8 7でa、bと答えた人はなぜですか。（複数回答可）
a 話の展開に興味がもてるから 35%
b 登場人物の心情に共感できるから 12%
c 今まで知らなかったことがわかるから 15%
d 登場人物の追体験ができるから 13%
e すばらしい表現を味わうことができるから 10%
f 考えを深めたり、生き方の参考になるから 15%

9 7でc、dと答えた人はなぜですか。（複数回答可）
a 読むのに時間がかかるから 24%
b 文字を追うのはおっくうだから 14%
c 言葉の意味や内容がわからないから 25%
d 真実味にかけるから 5%
e 詩や小説に興味がないから 28%
f その他 4%

以上の結果から、生徒は国語科に興味・関心をもち、また文学的文章の学習にも興味を抱きつつも、学ぶ手段が分からないために、読み取るときにはただあらすじを追うだけにとどまっているような現状が捉えられ、今後の学習の課題が浮き彫りにされた。生徒に「表現の工夫」に着目させることは、この課題の解決に資するものと考えた。そこで本分

科会では、生徒が「表現の工夫」に着目することにより、登場人物の心情や作品の情景が的確に読みとれるという考えから、「表現の工夫」を整理・分類し、類型化したものを作成した。その際、留意したのは、「表現の工夫」を大きくとらえ「擬人法」や「声喩」などの修辞法だけでなく、構成・人物などの点も含めたことである。

以下の表が、「表現の工夫」を類型化したものである。

型	項　目	具体例
構成	題名（主題との関わり） 設定（時代・時間・人物・場所） 全体の構成（場面の配列） 場面（各場面の動き・伏線）	愛のサーカス（別役　実） 〔題名・主題との関わり〕 故郷（魯迅） 〔時代・時間・人物・場所〕 少年の日の思い出　（ﾍﾙﾏﾝ・ﾍｯｾ） 〔全体の構成〕
視点	作者と話者 （書き手・語り手・登場人物・読み手） 一人称視点 三人称視点 視点の転換	カワセミ（図子英雄） 〔作者の視点の移動〕 我輩は猫である（夏目漱石） 〔視点〕
人物	中心人物とその対照的人物 中心人物の心情・人物像 中心人物の名前の意味 人物の対比	トロッコ（芥川　龍之介） 〔中心人物の心情の変化〕 山水の図（三浦朱門） 〔心情の変化〕
表現	対比（明と暗、視覚と聴覚、発端と結末） 反復（主要語句から連想される語句） 五感に訴える表現（視・聴・嗅・味・触） 比喩（直喩・隠喩・擬人法の総称） 省略法 象徴 色彩語 表記（句読点・カタカナ・カギカッコ等） 類義語・対義語との差異に着目 倒置法 声喩（擬態語、擬声語の総称）	木（田村隆一） 〔類義語・対義語〕 竜（今江　祥智） 〔擬声語・擬態語〕 空中ブランコ乗りのキキ 〔比喩表現〕　（別役　実） 虹の足（吉野　弘） 〔倒置法〕 夕焼け（吉野　弘） 〔反復法〕 四万十川（笹山久三） 〔比喩・象徴〕
文体	話者の特徴（語り方） 常体・敬体・文末・一文の特徴・効果・説明・描写・会話 文の調子（余情的・悲劇的・喜劇的・逆説的） 話法（間接話法・直接話法）	水仙月の四日（宮沢賢治） 〔民話調の文体の特徴〕 花帽子（石牟礼道子） 〔文体の特徴〕

以上の類型化されたものをもとに、個々の文学的文章の教材を扱う場合には、作品に応じた「表現の工夫」を取り出したワークシートを作成し、効果的な表現の学習をより明確にすることを、仮説検証の手立てとした。また、ワークシートと並行して、必ず、生徒自身・生徒相互・指導者の三方向から学習の成果が高まるような評価の工夫もした。

(4) 指導内容

① 「表現の工夫」に着目させる手順

教材文中の「表現の工夫」がなされている部分に着目して内容を読み取り、表現を工夫することを意識させ創作に取り組ませた。具体的には次のような方法をとった。

ア 教材文中で特徴的な「表現の工夫」を取り上げ、その意味や効果を学習する。

イ 学習した「表現の工夫」を教材文の他の部分や他の文章中から探す。

ウ 擬人法や倒置法などの「表現の工夫」を使って身近な題材で作文する。

エ あらかじめ教材の一部分を削除しておき、その部分を生徒に創作させた後、それと本文とを比較させる。

次は、上記ウ、エの課題例である。

課題例1 情景描写・擬人法に着目した場合

学校の校庭の様子を「情景描写」の文（文章）で書きなさい。その際、「擬人法」をできるだけ使うこと。

課題例2 会話文に着目した場合

会話文を使って、自分の周りのある日ある時の様子を書きなさい。

課題例3 比喩に着目した場合

比喩（直喩・隠喩・声喩）を使って、あなたの最も親しい友達について描写しなさい。

課題例4 作品の一部分を創作させる場合

この文章では、最後の数行が省略されている。その省略されている場面の状況だけを次に説明するので、それに基づいて前の部分からつながるように書きなさい。（状況説明と使用する「表現の工夫」などを提示しておく。）

以上の課題は、それぞれ扱う教材と着目する「表現の工夫」によって異なってくる。したがって、一教材のみの学習で終わるのではなく、三年間を通した学習が必要であると考える。

② 評　価

評価の仕方は、自己評価、相互評価、指導者の観察法による評価の三つの方法をとった。自己評価は、一時間ごとに評価カードを配布して、その時間に取り組んだ内容について理解し、意欲的に取り組めたかどうかを4項目について3段階で評価させた。また、毎回の授業についての一言感想を必ず書かせることにより、生徒の授業への意欲を高め、次の授業に生かすように努めた。

相互評価は、創作した作品について授業の中で生徒が相互に話し合い、評価していく方法をとった。指導者はそれら個々の作品について、一つ一つ具体的なコメントを与え、生徒相互の中では必ずしも十分には評価されなかったものについても取り上げ、生徒一人一人に学習意欲をもたせていくことを心掛けた。

学習確認カード	二年　組　番氏名	月日　／

学習状況を３段階で確認しましょう。（Ａ…十分到達できた　Ｂ…不十分な点は残るけど、頑張った　Ｃ…もう一度復習して努力する必要を感じる）

評　価　内　容	評　価　基　準
① 情景描写の創作を読んで、擬人法などの表現の工夫を感じた。	Ａ・Ｂ・Ｃ
② 「水曜日のクッキー」における会話文の重要性を理解した。	Ａ・Ｂ・Ｃ
③ その他のいろいろな小説の例にふれ、会話文の重要性を理解した。	Ａ・Ｂ・Ｃ
④ 会話文を工夫しながら、創作できた。	Ａ・Ｂ・Ｃ

授業についての一言感想

(5) 考　察

本分科会では、生徒の主体的な言語活動を促すために文学的文章の表現に着目させ、その「表現の工夫」を使った文章を書かせたり、作品の一部を創作させたりする方法について研究を進め、次のような成果を得ることができた。

① 個々の作品の中で使われている特色ある「表現の工夫」に着目させることにより、細部に注意を払い、心情や情景についての理解が深まった。

② 学習した「表現の工夫」を用いて創作することにより、生徒は自らの表現を工夫するようになり、表現力が豊かになった。

③ 学習した「表現の工夫」を用い、人物の心情や情景を適切に描写できるようになった。

④ 従来の読解中心の授業よりも関心・意欲の高まりが見られ、自己の創作にとどまらず、他者の表現にも関心をもつようになった。

⑤ 多様な評価により、学習の成果や達成感を生徒一人一人が感じることができ、意欲が喚起された。

以上の結果により、生徒の表現力を豊かにすることが、文学的文章を主体的に学習しようとする意欲の喚起につながることが分かった。

Ⅳ　実践事例

1　表 現 班

(1)　単元名　「組み立てを意識して意見を述べる」

(2)　単元設定の理由

音声言語は、文字言語と異なり、他からの情報を迅速に整理し、速やかに自分の意見を組み立てるとともに、分かりやすい言葉で相手に伝えることを求められる場面が多い。ところが、実際の生徒たちの発言や会話は、情報がしっかりと整理されておらず、筋道を立てて話すことができなかったり、情報をただ並べ立てたりするだけで、その場その場のおしゃべりという形となり、必ずしも分かりやすい表現であるとは言いがたい。また、生徒たちも、自分の意見や考えをどのように伝えていけばよいのかが分からないために、思い浮かんだことを整理しないまま相手に伝えていくことしかできないという実態もある。

こうした生徒たちの実態を踏まえて、「分かりやすく整理して伝える」ことを目標に、「意見発表の場」を設定し、組み立てを意識して意見を発表する学習に取り組むことにした。最初に生徒にテーマとそれに関する話材を与えることで、生徒が苦手とする「話材を探す」という部分を緩和し、与えられた話材を論理的に組み立てるという「組み立て」のみを意識して話すことに重点を置く。しかし、与えられた話材をただ並べても筋道だった話にはならないので、話材の膨らませ方や適切な接続語句の使い方、文末表現の仕方などを考えて自分の意見をまとめるという学習も行っていく。自分の意見を分かりやすく整理して相手に伝えるための基本的な「型」を学ぶことで、誰もがいつでも自分の意見が言えるということを学ばせることをねらいとしているのである。発展学習として、その型を利用して、テーマに沿って話材を集め、意見を論理的に組み立て、発表する学習を行う。

(3)　単元目標

①　主題をはっきりさせ、全体の構成を考えて、聞き手に分かりやすく話す。

②　話の効果を考えて、話す速度や音量、言葉の使い方を工夫する。

③　接続語句や文末表現に着目し、話の構成を正確に捉え、主題・要旨を把握する。

(4)　指導計画

①　目　　標

・構成要素の理解 ・接続語句や文末表現の理解	・与えられた話材の組み立て ・「型」の理解	・話材の収集 ・「型」を利用して構成

② 展　　開

＜第１時＞

- ワークシートＡで使われている構成要素を説明する。
- ワークシートＡを読み、［　］内に構成要素名を書き入れる。
- 各班で検討し、確認する。
- 接続語句や文末表現について指摘し合う。

＜第２時＞

- 同一の話材（ワークシートＢ）を与える。
- 班ごとに結論の位置を指定する。
- 結論以外の構成要素の組み立てを考え、接続語や文末表現を工夫して、ワークシートＣに記入する。

＜第３時＞（本時）

- 班ごとに組み立てられた意見を発表する。（テープに録音）
- 発表（録音テープ）を聞きながら、各班で組み立ての工夫、接続語句、文末表現の適否を検討し、発表する。（ワークシートＤ・Ｅを利用）
- 意見発表の組み立てとしてより良い「型」に気付かせる。

＜第４時＞

- ワークシートを用いて、班のテーマに沿って、自分で話材を集める。
- 「型」を利用して話材を組み立てる。
- 班の中で意見発表する。
- 班の中で聞き手に一番分かりやすかったものを選ぶ。

ワークシートＡ

話の組み立てを考えよう

1	どんなことがあっても廊下は走らないほうがよい。	〔　　〕
	なぜかというと、この学校の廊下はＬ字型で、見通しが悪く、いつどこで生徒同士の衝突事故が起こってもおかしくないからである。	〔　　〕
	しかし、非常のときは走ってもしかたがないという意見もあるだろう。	〔　　〕
	でも、非常時に皆が先を急いで走りだすと、誰かがつまずいて倒れたりしたときに、それが大事故につながる可能性がある。	〔　　〕
	だから、どんなことがあっても廊下は走らないほうがよい。	〔　　〕
2	いったい僕にとって「野球」とはどんなものだろうか。	〔　　〕
	つらいとき、うれしいとき、「野球」はいつも僕のそばにいてくれたような気がする。	〔　　〕
	そう、「野球」は僕の「親友」なのだ。	〔　　〕
3	自分が悪いことをしたのではないのに、「すみません」と言う人がいるのはなぜだろうか。	〔　　〕
	たとえば、魚屋さんで買い物をするとき、お客が魚屋のおばさんに「すみません」と声をかける。	〔　　〕
	これは、このお客が、自分が客であるという立場を忘れてしまっているかのようである。	〔　　〕
	いったい、この「すみません」には、どんな意味がこめられているのだろうか。	〔　　〕
4	話し手と視線が交わらない聞き手は、聞くことに対して消極的になります。	〔　　〕
	だから、話し合いの場合には、お互いに見える位置を考えるべきです。	〔　　〕
	また、お互いの距離によっても親しみをもつ度合いが変わってきます。	〔　　〕
	話し合いの場をつくるときは、互いの席をできるだけ近づけるということが鉄則です。	〔　　〕
5	私は、常々結婚式には仲人を立てる必要はない、披露宴など開く必要もないと思っているんです。	〔　　〕
	どうしてかというと、仲人へのお礼や、披露宴にかかる費用の心配もなく、経済的だからです。	〔　　〕
	それに対して、結婚は人生の節目であり、将来のことを少しでも多くの人にお願いしたほうがいいと考える人もいるでしょう。	〔　　〕
	しかし、結婚後の二人の生活が一番大切なのであって、その後のことなど考える必要はないと、私は思うのです。	〔　　〕
6	わたしは給食より弁当のほうがいいと思います。	〔　　〕
	その理由は、まず、弁当だと準備に時間がかからないからです。	〔　　〕
	たとえば、四時間目が少し長引いても、弁当ならばすぐに食べはじめることができます。	〔　　〕
	二つ目は、弁当だと自分の好きなおかずをいれてもらえるからです。	〔　　〕
	たとえば、給食では、献立が決まっているので、きらいなおかずばっかり出ることもあります。	〔　　〕
	みなさんはどのように考えますか。	〔　　〕

（問）　１～６の文章で、それぞれの話材がどんな構成要素になっているかを考えてみましょう。

語　群

結論　反論　そのまた反論　根拠（理由）　問題提起　例　説明

（問）　前問の構成要素を組み立てるのに効果的に使われている接続語句や文末表現を見つけて、線を引いてみましょう。

＜第５・６時＞

- 各班の代表者が話材カードを持ち、発表する。
- 発表を聞きながら、各班で組み立ての工夫や接続語句、文末表現の適否を検討し、発表する。

(5)　本時の指導

①　目　　標

- 接続語句・文末表現に注目し、話の構成を正確にとらえる。
- 話す速度や音量、言葉の使い方などを意識して発表する。
- 分かりやすく意見を伝えるにはどのような構成が適切かを学ぶ。

ワークシートＢ

話材カード

テーマ　「文章は縦書きか、それとも横書きか。」

①	文章は「縦書き」が＿＿＿
②	文章は「横書き」が＿＿＿
③	漢字とひらがなを美しく表現＿＿＿
④	読みやすくて一目瞭然＿＿＿
⑤	速く書くことが＿＿＿
⑥	数字やカタカナを書くのに＿＿＿
⑦	手や用紙が汚れ＿＿＿
⑧	本棚に並んだ本のタイトルが読み＿＿＿
⑨	実用的で現代的＿＿＿
⑩	親しみやすくカジュアル＿＿＿
⑪	目上の人など改まった場合に＿＿＿
⑫	今の日本語にはたくさんの外来語がある。
⑬	文章を読み返しながら書くのに＿＿＿
⑭	日本語だなという感じが＿＿＿
⑮	「縦書き」は必要＿＿＿
⑯	「横書き」は必要＿＿＿

国語ワークシートＣ　年　組　番　名前

〔組み立てを意識して意見を述べる。〕

テーマ〔文章は縦書きか、それとも横書きか。〕

一、班で意見をまとめる。話材を選び、筋道のとおるように並べてみよう。また、それぞれの話材がどんな要素になっているかも書いてみよう。

接続語	話材	要素
	みなさん、文章は縦書きがいいと思いませんか。	問題提起
理由	読みやすくて一目瞭然だからです	理由根拠
例をあげると	本棚に並んだ本のタイトルが読みやすいということです。	例
しかし	文章は横書きがいいと言う人もいます	反論
でも	目上の人など改まった場合に、やっぱり縦書きがいいと思います。	そのまた反論
	このようなことを考えると文章は縦書きがいいと思います	結論

② 本時の学習計画

	導入	展開	まとめ
指導	①前時までの学習内容を確認し、本時の流れを説明する。 ②評価カード・ワークシートを配布し、説明する。	①前時に班で組み立てた意見を発表させる。各班の発表を録音する。 ②発表を聞きながら、ワークシートに記入するよう指示する。 ③録音したものを聞かせる。話材の順序、接続語句、文末表現などを確認させる。 ④各自がまとめたものを班で検討し、班の考えをまとめ、発表者を決めるよう指示する。 ⑤各班で検討したことを、代表者より発表させる。特にどの組み立てが分かりやすかったか、その理由などを発表させる。 ⑥各班から出された意見をみんなで検討する。	①パターンの中で一番多いものに注目させる。意見発表の組み立てについて説明し、まとめる。
生徒の活動	①前時までの学習内容を思い出し、本時の流れを理解する。 ②評価カード・ワークシートを確認する。	①発表者は話材カードを持ち、接続語句・文末表現を考えながら発表する。 ②聞き手は、一番分かりやすいものと、その理由についてワークシートに記入する。 ③ワークシートに、接続語句や構成要素などを記入する。 ④自分の意見を班内で発表する。出された意見をもとに班で検討する。一番分かりやすいものを班で選び、その理由を話し合う。 ⑤代表者が「選んだ理由」などを発表する。聞き手はその意見をメモしていく。評価カードに記入する。 ⑥どのパターンが多いかを確認する。	①一番多いものの特徴を考える。意見発表の組み立てとして一番いい型を考えてみる。
評価	①前時までの学習内容がしっかりと分かっているか。 ②教師の指示をしっかり聞くことができたか。	①発表者は話材カードをしっかり活用できたか。集中して聞くことができたか。 ②発表者の意見をしっかりと聞くことができたか。 ③接続語句や文末表現・構成要素が確認できたか。 ④自分の考えを相手にしっかりと伝えることができたか。班の話し合いに積極的に参加できたか。 ⑤（発表者）メモをもとに班の意見をきちんと発表できたか。（聞き手）各班の意見を集中して聞くことができ、しっかりとメモできたか。	①意見発表の組み立てとしてどれが分かりやすいか、「結論」の位置関係が理解できたか。

〔板書計画〕

組み立てを意識して意見を述べる

テーマ「文章は縦書きか、それとも横書きか」

A
□班
（構成要素・接続語句）
○→○→○→○→○→○→○→○

B
□班
（構成要素・接続語句）
○→○→○→○→○→○→○→○

C
□班
（構成要素・接続語句）
○→○→○→○→○→○→○→○

□班
（構成要素・接続語句）
○→○→○→○→○

・どのパターンが分かりやすかったか、その理由。

A→

B→

C→

（まとめ）

・一番分かりやすい意見発表の組み立てとしては

基本的には、結論を先に述べ、話材が多いときは最後にもう一度結論を繰り返すとよい。

③　評　　価

・接続語句や文末表現に着目し、話の構成を正確にとらえることができたか。

・話す速度や音量、言葉の使い方などを意識して発表することができたか。

・分かりやすく意見を伝えるための組み立てを学ぶことができたか。

④　考　　察

・音声言語を扱うときに、テープレコーダーやＶＴＲ等の視聴覚機器を利用することは大変有効である。

・聞き手の理解は話し手の話し方（音量・速度・イントネーション・プロミネンス等）に左右されることが多いので、構成を意識させるための工夫が必要である。

・話し手の表現力を向上させることが、聞き手の理解力を向上させることにつながるものと考えられる。

ワークシートＤ　　組　　番　　名前

班	接続語句・種を出しの言葉	構成要素
1		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	どうしてかというと	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	それに	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	でも	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	（みなさんは）	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
2		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	その理由は	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	だから	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
3		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	なぜかというと	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	でも	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	だから	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論

班	接続語句・種を出しの言葉	構成要素
4		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	なぜなら	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	もう一つの理由は	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	それに対して	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
5		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	理由は	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	例をあげると	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	でし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	このような事実からすると	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
6		例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	なぜかというと	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	例えば	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	しかし	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	でも	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論
	だから	例 結論 理由 説明 反論 問題提起 そのまた反論

ワークシート E

組　番　名前

テーマ『文章は縦書きか、横書きか』

1　あなたは、どの班（自分の班も含めて）の意見発表が、一番分かりやすいと思いましたか。また、その理由はなんですか。

□ 班

（理　由）

2　班の意見としてまとめてみましょう。

どの班（自分の班も含めて）の意見発表が、一番分かりやすいと思いましたか。また、その理由はなんですか。

□ 班

（理　由）

3　ほかの班の発表をメモしてみましょう。

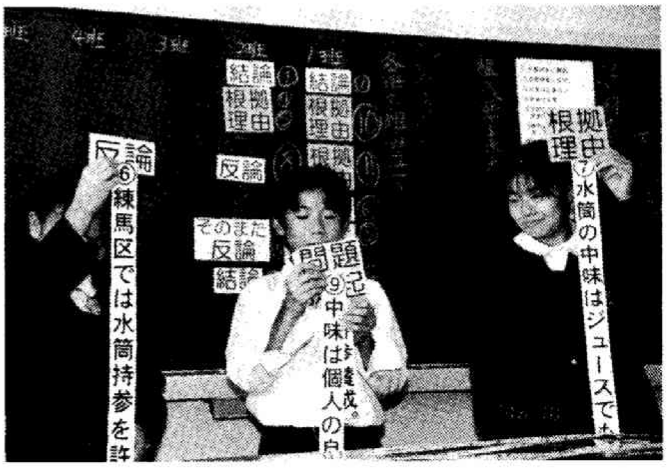
班	一番よかったのは	そ　の　理　由

4　まとめ

【評価カード】　年　組　番　名前

	項　目	評	価	
個人として	①接続語句や文末表現に気を付けて聞くことができた。	3	2	1
	②話材や組み立てに気を付けて聞くことができた。	3	2	1
	③内容をしっかりと理解することができた。	3	2	1
班内の活動	①メモをもとに自分の考えを発表することができた。	3	2	1
	②班の人の意見をしっかり聞くことができた。	3	2	1
	③班の話し合いに積極的に参加できた。	3	2	1

（評価について⇨　3…よくできた　2…できた　1…もうひとがんばり）



2　理解班

(1)　単元名

「表現の工夫」に着目しながら文学的文章を主体的に読み取る。（教材　内海隆一郎「水曜日のクッキー」学校図書２年）

(2)　単元設定の理由

言語は自分の意思を正しく伝えたり、相手の意思を正しく理解したりするためにある。また、物事を正しく認識するためにも言語は不可欠である。したがって「主体的な言語活動」とは、このような「意志疎通としての言語」と「認識するための言語」とを生徒が積極的に用いることと考えられる。

文学的文章の指導は、生徒の心情を深めるとともに二つの側面をもつ言語活動を主体的に行うための一つの方法として位置付けることもできる。文学的文章における「表現の工夫」の学習は、日常のコミュニケーションの場面においても、また物事を認識するときにも役に立つであろう。

(3)　単元目標

①　「表現の工夫」を整理・分類したものを参考にし、簡単な詩の創作に取り組むことによって、「表現の工夫」の面白さや大切さに気付く。

②　教材文の個々の場面での最も特徴的な「表現の工夫」を取り上げて、その機能や意味を学習し、さらにその「表現の工夫」を用いて作文を書くことにより、「表現の工夫」について考えながら積極的に取り組む。

③　その小説の最終場面の一節を省略して生徒に提示し、生徒にその部分を創作させ、それを本文と比較検討させることを通して、「表現の工夫」に着目する姿勢を身に付けさせる。

(4)　指導計画

・第１時　①　小説や詩などにおける「表現の工夫」についてのいくつかの例をもとに学習する。

②　詩「ウソ」の第四連までに見られる「表現の工夫」を探す。

③　詩「虹の足」の創作部分を読み、参考にする。

④　詩「ウソ」の第五連の省略された部分について、表現を工夫させながら創作する。

・第２時　①　前時に取り組んだ創作作品から、様々な友人の「表現の工夫」に触れる。

②　「水曜日のクッキー」（最終場面カット版。以下「本文」とする）の前半部を範読して、そこまでのあらすじをつかませる。

③　本文冒頭部における「表現の工夫」（人物描写の仕方と伏線）について学習する。

④　自分の友人について作文することにより、人物描写について学習する。

・第３時　①　前時に学習した「言葉（文章）による人物描写」を相互に読み合い、人物を生き生きと描写することを学ぶ。

②　本文第２の部分における「表現の工夫」（情景描写の仕方と擬人法）について学習する。

③　校庭に出て校庭の様子を言葉（文章）で描写することによって、情景描写について学習する。

・第４時　①　前時に学習した「言葉（文章）による情景描写」を相互に読み合い、擬人法などの効果を理解する。

②　本文第３の部分における会話文についてその工夫を学習する。

③　会話文についてその他の例（３つ）に触れ、様々な工夫の仕方があることに気付く。

④　知人の様子を会話文を使って表現する。

・第５時　①　前時に学んで「会話文による人物描写」を相互に読み合い、話し言葉と書き言葉の違いに気付き、その「表現の工夫」について理解する。

②　会話文を用いた創作の中から表現が工夫されていると思われるものを選ぶ。

③　国語班で話し合い、各自の選んだ作品のよさをさらに深く考える。

④　班ごとに考えを発表し、議論を深める。

・第６時　①　本文後半部分の範読ののち、冒頭部分から本文第４の部分に認められる「倒置的構成」について学習する。

②　本文最終部分の省略されている部分を想像して書く。

・第７時　①　前時に学んだ「省略されている部分の創作」を国語班の中で紹介し合う。

②　国語班では、さらに表現を膨らませたり、推敲したりする。

・第８時（本時）　①　国語班でまとめた最終部分の創作を紹介し、いろいろな「表現の工夫」に気付かせる。

②　４つの班の創作を特に取り上げて、それらの中でどのような「表現の工夫」がなされているか考える。

③　作者による原文と自分たちが創作したそれらとを比較し、作者の「表現の工夫」を理解する。

(5)　本時の指導

①　本時の学習目標

ア　「表現の工夫」を考えながら各自で文章を読み、何が優れているか気付くことができる。

イ　「表現の工夫」を考えながら各班で話し合い、何が優れているかその理由を具体的に考えることができる。

ウ　「表現の工夫」を考えながら、言葉の適切な選び方を理解することができる。

②　本時の評価（事後アンケート　対象生徒108人）

ア　「表現の工夫」を考えながら各自で文章を読み、何が優れているか気付くことができたか。

イ　「表現の工夫」を考えながら各班で話し合い、何が優れているかその理由を具体的に考えることができたか。

ウ　「表現の工夫」を考えながら、言葉の適切な選び方を理解することができたか。

③　本時の展開

	指　　導	生徒の活動	評　　価
導入 5分	◇前時までの学習内容を確認し、本時の学習の流れと目標を説明する。 ◇掲示された各班の創作を紹介する。 ◇最終部分を創作した中から四つを選んでまとめたプリントを配布。	◇前時までの学習内容を思い出し、本時の流れと目標を理解する。 ◇掲示された自分たちの創作を読む。 ◇プリントを読む。	○教師の話を、集中して聞くことができる。(観察法) ○興味・関心をもって掲示物を読む。　(観察法) ○プリントに集中する。
	［説明］「国語班でまとめたみんなの創作です。立派な創作になったと思います。(班ごとに具体的な評価の言葉を入れる)」		

展開1 10分	◇四つの作品の表現の工夫を考えさせる。	◇四つの作品の中から、特に良いものをさがし、「創作評価カード」に自分の考えを記入する。	▽どれが特に工夫されているか自分で考えることができる。　(観察法) △■「創作評価カード」に自分の考えを適切に記入することができる。(観察法・自己評価・相互評価)
	【発問】《指示》「では、この中でどれが特に表現が工夫されているか考え、カードに記入しなさい。」		

展開2 10分	◇班に移動させ、上記の【発問】について、各班で考えをまとめさせる。	◇班で話し合う。 ◇表現が特に工夫されていると思われるものを班として二つ決め、それぞれ「金賞」「銀賞」とし、そのマークをはる。	○班の話し合いに積極的に取り組む。　(観察法) △班としての意見をまとめていくことができる。 (観察法)
	《指示》「班長は、班員の意見をよく聞き班としての考えをまとめなさい。」		

展開3 10分	◇各班からまとまった考えを発表してもらい、論議させる。	◇「金賞」理由を発表しあい、論議する。	△班の意見をきちんと発表できる。　（観察法） △▽他の班の意見を理解しながら論議に参加することができる。　（自己評価）
	《指示》「金賞理由を発表し、話し合いなさい。」		

展開4 10分	◇作者による原文を紹介しその「表現の工夫」について学習させる。	◇発問に答えながら、説明をよく聞き、板書をプリントに写していく。	▽原文に見られる「表現の工夫」を理解することができる　（自己評価）
	【発問】「ここの会話文にはもう一つ、どのような心情が読み取れますか。」 【発問】「石川さんの喜んでいる様子はどのように描かれていますか。」		

まとめ 5分	◇原文と創作作品を比較させ、その効果の違いを学習してまとめとする。	◇発問に答えながら、説明をよく聞き、理解する。	▽原文と創作作品を比較して、その効果の違いを理解できる。
	［説明］「このように適切な言葉を過不足なく使って書く、という工夫の仕方もあります。」		

＊評価の記号―○意欲・関心・態度　▽理解　△表現　■言語事項

(6) 考　察

「水曜日のクッキー」という小説教材の内容や主題の理解まで踏み込むことはできなかったかもしれないが、創作を通して生徒が自らかかわっていくことによって、それまでの「読解」中心の授業には見られなかった学習への意欲や関心の高まりを感じ取ることができた。主体的な言語活動を促す授業の実践的な一つの方法として、「読む」ことと「書くこと」とをつなげることが大事であるということを、改めて強く感じた。

ワークシート「水曜日のクッキー」その2

二年　組　番　氏名

――どうしたのかなあ。風邪でもひいたのだろうか。

五月上旬の空気はすがすがしく、とても風邪などひくような季節ではない。そばのけやきの木は、生き生きとした若葉をもえたたせている。

石川さんは、この一年ほど、午後の散歩を欠かしたことがない。医師の勧めで、毎日一時間は歩くことにしているのである。

五十歳の声が聞こえたら、急に体の調子が不安定になって、それがはっきりと心電図の上に現れた。「ニトロ」と呼ばれる直径六ミリほどの白い錠剤を肌身離さず持って、発作に備えるようにと指示された時は、さすがにショックを受けた。

それ以来ずっと、まだ経験していない発作の苦しみをあれこれ想像して、おびえ続けているのである。

――心臓にいいのなら、仕方ないな。

そう思って渋々始めた散歩なのだが、間もなく、こんなにすばらしいことを、これまでどうして見過ごしていたのだろう、と思うようになった。ことに「けやき通り」に来ると、つくづくそう思うのである。

そこは、呼び名のとおりけやきの並木道になっている。幅十メートルの車道を挟んで、幹の太さが大人の腕でようやく一抱えできるぐらいのけやきの木が、六メートル間隔でそびえている。両側に、ゆったりした歩道がついている。およそ二キロの「けやき通り」には人家や店舗が少なく、畑や雑木林が目立っている。

都心から電車で約一時間半の、武蔵野の一角にできた比較的新しい町だからである。

車道の中央に立って見ると、けやきの列が目の届く限りに連なって、高いこずえを風にそよがせながら美しい遠近法の構図を見せている。

四季おりおりのけやきの表情がある。冬空に黒々と腕を伸ばしていた裸木が、薄い緑色を一掃きしたような新芽を吹き、やがてびっしりと緑葉を茂らせ、秋風と共に黄葉を降り注ぐ。――石川さんは、この一年間、「けやき通り」の四季に接しながら、いつもさわやかな散歩を楽しむことができた。

渋々ながらの散歩をすばらしいものに変えてくれた「けやき通り」は、石川さんに一人の若い友人まで紹介してくれた。

それが、クッキー売りの青年であった。

――「表現の工夫」その2――

情景描写―その場のありさまや風景の様子など「情景」を描くことを特に「情景描写」と呼ぶ。

擬人法―比喩法の一種。人間以外のものを人格化し、人間にたとえる方法。

＊　この部分はこの小説の重要な舞台である「けやき通り」の様子が印象的に描かれている。その「けやき通り」の情景や木々の様子を描いた「情景描写」を探し、傍線を引きなさい。

＊　また、この部分では擬人法が巧みに使われている。擬人法が使われている部分を探し、次に抜き出しなさい。

＊　学校の校庭の様子を描き「情景描写」の文（文章）を書きなさい。その際、「擬人法」をできるだけ使って書きなさい。

情景描写の創作　（ワークシートその2より）

・　私はある日外に出た。外の風は肌寒く、どこからともなく笛の音が聞こえる。校庭では三年生が走っていてまるでメリーゴーランドのようだ。追いつき追い抜く。そこにお日様が割り込んで日光をさんさんと降り注いでいる。
（２Ａ・男子）

・　太陽は木を照らし、木は草や風にささやきかけている。そして、その木の葉はさまざまに色づき大人びた様子を感じさせる。また校庭には多くの木々がそびえたっている。
（２Ａ・男子）

・　テニスコート側の小さなジャングル、木のむれのあたりは天気の良いときでも少し暗くかすかに話し声が聞こえてくるようだ。木に風がふくとざわざわ話をしているように私には見えた。
（２Ａ・女子）

・　私の前には高さ一メートルにも満たない木が立っている。それは実にそっけないのだが、僕のことを書いてくれと言っているようにも見える。その姿は映画のＥ・Ｔのようである。その下から生えている猫じゃらしは、Ｅ・Ｔを守る子供たちのようだ。
（２Ａ・女子）

・　銀杏（イチョウ）の葉も衣替え、緑から黄色、なんだか自慢しているみたい。「キレイでしょ」って。
（２Ａ・女子）

・　三本の鉄柱は相変わらず黙っている。高貴な感じで「ツン」と立っている。サルビアは人がフッと走り去っていく時、しなやかな体を「クルリ」と踊らせる。それを父親のようにあたたかく見つめている木々は時々、優しく黄色や赤に染まった葉を毛布のように落とす。斜めからふりそそぐ夕日を木々は受け止め、ぼやけた影をインターロックの上に落とす。木々の間に「ぽつん」と二人で仲良く座っている銅像は小さな松の陰で内緒話をしているようだ。
（２Ａ・女子）

・　あの雲は、小さい羊が群をなして移動するかのごとく、ゆっくりゆっくり形を変えながら動いていく。そしてちょっと下を見ると木がそよ風でかすかに動いている。そして、羊の群はその木の向こうに消えてゆく。
（２Ｂ・男子）

・　そこにはまだ青い木といっしょにもう赤くなってほとんど葉っぱがない木があった。そこにはギンナンの匂いが気持ちいい風とともに流れていた。空は深く青くそれでいて何かさびしげだった。
（２Ｂ・男子）

・　あたりの草、木、花は、秋のほんのりあたたたくやさしい吐息にゆられて、春夏の生き生きとした緑葉から、赤、茶、黄色の着物をまとった大人のような木々がたくさんある。猫ジャラシは今にも眠りそうにこっくりこっくりしていた。空の雲は、秋の風とともにのんびりと青い海を泳いでいた。
（２Ｂ・男子）

・　十月の校庭、空は青くすき通り、雲は隊列を組んで並んでいる。花壇には花が背伸びをし、たくさんの木は静かに空を眺め、風が何かささやきながら通りすぎていくのである。
（２Ｂ・男子）

・　校庭には奥の方に枝の垂れた木がある。半分は緑色のフェンスみたいなものにかくれていて、もう半分は太陽の光を体いっぱいにあびている。風も少し吹いているから左右に少しずつその枝はゆれる。枝のまわりには葉があるのだが、おもしろいことにその葉も枝と同様に垂れている。だから、その葉は葉というより笹とか草などのようなものに見えてしまう。
（２Ｂ・男子）

・　空にはあたたかい太陽と、のんびりと少しずつ形を変えて流れる雲。日はすでに西に傾いて、季節はすっかり秋の色に染まっている。音楽室からは笛の音が聞こえてくる。うるさい音はまったく聞こえない、気持ちいい午後。やさしくゆれながら木々の緑がささやき合っているように、キラキラと太陽の光をすかしている。自然の小さな動きが私をあきさせない。気がつくと、日はさっきよりも西に傾いている。
（２Ｂ・女子）

V　研究のまとめと今後の課題

本年度の研究の課題は、「生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的な言語活動を促す指導と評価の工夫」であり、表現班、理解班の2班に分かれて研究してきた。私たちは、この間の研究で、以下のような成果を得るとともに、新たにいくつかの課題に気付くことができた。

○　表現班では、「音声言語による論理的な表現力の育成」という副主題を設け、音声言語により論理的な表現力を育成することが、生徒の学習意欲を喚起したり、主体的な言語活動を促したりするうえで重要であると考えた。考察に示したように、「話材カード」や「構成カード」等を使い、意見を発表するときの組み立てに重点をおいた指導を行った。

・　研究の成果

①　自分の考えを相手に分かりやすく伝えるためには、適切な組み立てが必要であることに着目させることができた。

②　意見を発表するとき、しっかりした組み立てに従って主張しようという態度を育成することができた。

・　今後の課題

①　発音、発声等に関する配慮や話材を豊かにする力、目的や場面に応じて的確に表現する力などの育成。

②　話し合い活動のなかで、他者の意見を正確に聞き取り、自分の意見を組み立て、説得力のある表現ができる力の育成。

③　上記①、②の能力を身に付けるための各学年の系統だった指導計画の作成。

○　理解班では、「文学的文章を主体的に読み取る力を育てる ――『表現の工夫』に着目することを通して ――」という副主題を設定して研究を進めた。まず、生徒に対するアンケート調査の結果から、「文学的文章の学習は嫌いではないが、あらすじさえ分かればそれで良い」という表面的な理解しかしていないこと、そのため「文学的文章を深く味わうことができず、興味が持続しない」などの実態があることが分かった。そこで、文学的文章において作者が自らの思いを効果的に表現するために用いた「表現の工夫」を、中学生の発達段階を考慮しつつ取り上げた。また、教材研究の段階で、生徒に確実に理解させたいと思う箇所では、理解の手掛かりとして、「表現の工夫」に着目させるよう、きめ細かく計画を立てた。さらに、「生徒が主体的に読み取る」ことができるよう研究授業を実践した。

・　研究の成果

①　学習した表現技法を用いて短作文を書く活動を取り入れることにより、生徒の主体的な活動を促すことができた。

②　文学的文章の終末部を省略した教材文を与え、省略された部分を生徒が自ら想像して書く活動を取り入れることにより、生徒の学習意欲を喚起できた。

・　今後の課題

①　学習内容と生徒の実態に応じたワークシートの作成。

②　生徒同士の相互評価の段階で、他の人の優れた点が見つけられるような理解力、鑑賞力の育成。

今回の研究では、「音声言語による表現」と「文学的文章の理解」の二分野を取り上げて研究を行ったが、本年度の研究主題は、国語科学習指導の全領域において追究していくべき課題である。本研究を契機に、さらに研究を深めていきたい。